

## 編集後記

本年度から本誌の編集幹事に加えていただきました。肝胆膵外科医・肝臓移植医の立場から誌面作りに協力したいと思います。よろしくお願い申し上げます。

本号の特集である「肝胆膵の Intervention」は本誌のキャッチフレーズ「病態・治療に迫る専門誌」の言葉通り、診断から治療へ踏み込んだ内容となっている。執筆者の多くが内科医や放射線科医で、外科医の私にとってはそのパワーを感じさせられると同時に感慨も深かった。筆者が外科医になった1980年代前半に研修先で最初に見た「肝胆膵の Intervention」は経皮経肝胆道ドレナージ(PTCD)で、超音波のない時代であった。まず細いPTC針で胆管造影を行い、次に太いドレナージ針を透視だけを頼りに刺していく。透視だけでの穿刺は不正確で、しかも太い針の抵抗が大きく硬い胆管を貫くことができない。何度かの穿刺の後、内筒を抜いてみると外筒の太い内腔から血液が多量に噴出した(ように見えた)。今から思えば門脈枝を穿刺したのであろう。急いで外筒を抜去して圧迫。出血は事なきを得たが、減黄できないので緊急手術で小開腹して外胆嚢瘻を造設した。その直後に超音波ガイドがその病院でも導入され、筆者自身も超音波ガイド下PTCDの手技を学んだ。この導入で手技は格段に正確で安全になったが重篤な合併症も隣り合わせで、外科医以外には手の出しづらい領域と考えられていた。

それがここ約20年の技術の進歩によりこの様変わりである。筆者の施設でも有能な「肝胆膵内科医」たちが多くの Intervention をこなし、さらに新しい技術の開発に熱心に取り組んでいる。ひと昔前は侵襲的な手術を行うか、治療そのものをあきらめるしかなかった患者さんが、Intervention 技術で救われる時代になった。また、内科医が主体となって行われていることも意義深い。外科サイドとしては、内科医や放射線科医の「注意深いチャレンジ」を見守り、手術が必要な合併症が発生した場合に備えて待機するよう心がけている。そのためには内科と外科のコミュニケーションが重要で、チャレンジングな Intervention を試みる時には事前に内科から相談をいただいている。

外科医不足が叫ばれるこの時代、侵襲的な治療の一部を Intervention として内科医や放射線科医に肩代わりしてもらうことはありがたいのであるが、本来外科医になる予定だった(?)若い有能な医師たちが内科や放射線科に進んでいるのではないかと、疑うのは考えすぎであらうか。

(國土典宏)

### 編集顧問

有山 襄 竹原 靖明 望月 福治

### 編集幹事

二村 雄次 角谷 眞澄 神澤 輝実 工藤 正俊

國土 典宏 柳野 正人 真口 宏介

山雄 健次

### 編集委員

朝倉 徹 跡見 裕 猪狩 功遺

石川 洋子 市川 智章 伊東 克能

乾 和郎 今井 裕 植木 敏晴

太田 哲生 岡崎 和一 梶原 建熙

兼松 雅之 川崎 誠治 蒲田 敏文

鬼島 宏 木下 壽文 木村 理

熊田 卓 小井戸一光 近藤 哲

坂元 亨宇 佐々木 洋 下瀬川 徹

須山 正文 高安 賢一 高山 忠利

竹内 和男 武田 和憲 田中 雅夫

土井隆一郎 長川 達哉 信川 文誠

長谷部 修 廣橋 伸治 本田 浩

眞栄城兼清 前谷 容 松井 修

村上 卓道 森 宣 森安 史典

柳澤 昭夫 山下 康行 山野 三紀

竜 崇正 渡辺 五朗 (五十音順)

### 掲載広告索引

(五十音順)

|                        |       |
|------------------------|-------|
| アステラス製薬(株)             | 103 頁 |
| アストラゼネカ(株)             | 104 頁 |
| エーザイ(株)                | 表 2   |
| オリンパスメディカルシステムズ(株)     | 108 頁 |
| 第一三共(株)                | 表 4   |
| テルモ(株)                 | 116 頁 |
| 東芝メディカルシステムズ(株)        | 表 3   |
| ボストン・サイエンティフィックジャパン(株) | 142 頁 |

### 肝胆膵画像(第11巻第2号)

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

☎ 本誌編集室直通 (03)3817-5714 (担当)藤田・能藤

FAX (03)3815-7802・3815-7982

E-mail: gazo@igaku-shoin.co.jp

http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/kantansui/

2009年3月15日発行(隔月15日発行)

本号特別定価4,200円(本体4,000円+税5%)

通常号定価3,675円(本体3,500円+税5%)

2009年年ぎめ予約購読料21,930円(年間6冊)(送料弊社負担)

MedicalFinder パーソナルオプション付 28,500円

(税込定価・送料弊社負担)

☎ 販売部直通 (03)3817-5659

振替口座 00170-9-96693

印刷所 (株)アイワード ☎(011)241-9341(代)

広告取扱 (株)文京メディカル ☎(03)3817-8036(代)

- Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo. ©2009, Printed in Japan.
- 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有いたします。
- JCLS** (株)日本著作出版権管理システム委託出版物
- 本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(電話 03-3817-5670, FAX 03-3815-8199)の許諾を得てください。
- 医学書院ホームページ(インターネット)は <http://www.igaku-shoin.co.jp> です。